さくらサイエンスプラン活動報告

送り出し側機関：タイ　タマサート大学シリントーン国際工学部(SIIT)
実施期間：２０１９年１０月２３日～１１月１日
参加者：教員１名，学生１５名
　　都市工学分野５名(学部生５名)
　　情報分野１０名(学部生９名，大学院生１名)

活動報告：

今回 SIIT とのプログラムで初めてのタイ国以外からの学生を迎えての実施となった。都市工学分野でカンボジアからの学部 3 年生２名が，情報分野でパキスタンからの博士課程の学生が１名参加し, 特に全員参加の交流の場では複数の国の文化を共有することができ, 有意義であった。

台風１９号で大学のキャンパスが被災し，開催が危ぶまれたが，会場や受け入れ先研究室を変更することにより，当初の計画と同等の内容で実施することができた。プログラムの初日にはまず, 東京大学の紹介と見学, そして本学が用意している留学生受け入れの取組について説明した。図１がガイダンスの際の様子である。

図１　初日のガイダンスの様子

その後研究室における活動に向け, 受け入れ研究室の教員あるいは学生との顔合わせが行われ, 研究室での PBL がスタートした。今回は情報分野の学生が 10 名，都市工学分野の学生が 5 名であり，情報分野の参加者は 6 研究室に分かれて活動した。都市工学分野の参加者は，キャンパスを含め, 周辺が被災したことから, その調査団に同行し, 水害について実地に学ぶことになった。

図２　ナノエレクトロニクス研究センターで研究室の学生と半導体デバイス作成を行う参加者

最終日には，各研究室での成果を発表する発表会が実施された。受け入れ予定の研究室が被災したため，当初の予定とは異なる，専門分野が離れた研究室に変更した参加者も，普段学んでいないことを体験することができて新鮮であったとの感想を述べており，この点は怪我の功名であった。図３は情報分野の参加者による発表，図４は都市工学分野の参加者による発表の様子である。特に，タイやカンボジアは水害が多い土地柄であるとのことで，今回の水害現場の実地視察は良い体験となったようである。

図３　情報分野の参加者による発表の様子

図４　水害について発表する都市工学分野の参加者

発表会に続いて修了式を行い，学長より修了証と記念品が贈呈された(図５，６)。

図５　学長から修了証を授与される参加者

図６　修了式後の記念撮影

さらにこのあと，お別れパーティを開催し，研究室で一緒に取り組んだ学生とともに，短い滞在の名残を惜しんだ。